もしあき
基本イラスト11枚、差分込み156枚
おいしいうどん

「いや、確かに昨日は学校でしようって言ったけど……」
「よく考えたら、ヤバいって」
「ほんと、深夜のノリで言っただけだから」
「野クルの部室なら、見られることはないだろうし」
「人もほとんど来ない場所だけどさ」
「じゃあ、とりあえず部室の前まで行くだけは行ってみて」
「それで決めよう」

「人いないな」
「昼、ここに用があるやつなんていないし、当たり前かもだけど」
「……」

「じゃあ……さっさと済ませろよ！」
「人が来そうな感じがあったらそこで終わりだからな！」
「……いや、したくないってわけではなくて……」
「その、あたしだってしたいと言えばしたいから」
「否定ばっかしてたのは、ちょっと不安だったからで」
「いいから！　さっさとするぞ」

「ほら、パンツずらして挿れろ」
「全部脱いだら、人来たとき着るの大変だろ」
「尻撫でなくていいから！」

キキ…キキ…

キキ…

「早くしろって」
「……濡れてるから」
「さっき話しているときから興奮してた」
「っていいだろ」

「おまんこぐちょぐちょとか言うなー！」
「今、言葉責めいらないから！」
「ほんとバカだな……んんっ♥」

「……ばか♥　あたしの……んっ♥　……気持ちいいところ攻めるな」
「声……出ちゃうだろ」
「お前だけ気持ちよくなれば……いいんだよ♥」
「だから……♥　やめろって!!」
「……っっん♥」
「あほ！　もう勝手にしていいから早くイケ♥」
「休み時間……あっ♥　終わっちゃうぞ」

ぷくぅ
ドクッ♡
ドクッ
ぴくん

「えっ……イッてない？」
「あたしをイカせただけ？」
「バカだな……ほんと」
「……」
「……放課後、野クルの部室来て」
「お前がイクまで付き合ってやるから」

「ほら、早く中入れ」
「はぁ？　何言ってるんだよ？」
「部員じゃないのに部室はいっていいのかなって……」
「昼休み入って……中で……その……しただろ」
「部活時間はなんか違うってどんな理論だよ」
「いいから、早くしろって」

「この時間もほとんど人来ないって言っても」
「来るかも知れないから早くしろよ」
「昼みたいにあたしをイカせなくていいからな！」
「この時間だって、声出せるわけじゃないし……」
「エッチのとき、いっぱい声出ちゃうの知ってるだろ」
「さすがにこれでイカなかったら怒るからな！」

「やばい……昼の感じまだ残ってて」
「おまんこが敏感だから……」
「もうちょっとゆっくり……あっ……お願い♥」
んんっ♥
ぐっぽ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ズッ
ズッ

「お前んっ♥」
「本当に言うこと聞かないな、ああ♥」
「こんなに気持ち良くして……」
「あたしを……どうしたいんだよぉぉぉ♥」
あっ
あぁ♡
ぐぷ
ズプ
ズプ
くちゅ
くちゅ
ズ…

ドクッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ

ふーっ
はーっ♡
はーっ♡
はーっ♡
ふーっ
ふーっ
「まだ……ちょっとこのまま挿れといて♡」
「イキすぎて……今抜かれるとやばい♡」
ドクドク!!
ドク
ドク
ドク
ドク
びくん
びくっ

「コンドーム？　持って帰るんだけど？」
「いや、部室に捨てるわけにいかないだろ」
「使用済みコンドームでエッチなことすると思ったって……」
「お前発想がおかしいぞ！」

「ほら、帰れ。あたしは少し経ってから帰るから、万が一人来たら面倒だし」
「付き合ってるの……まだバレたくないから」
「……バレるの嫌だとかじゃなくて、気持ちの整理の問題」
「……もちろん、ちゃんと好きだから」
「好きじゃなかったらこんなことしないし」
「……」
「また明日な」

数日後

「部活中なんだから……早くしてくれよ」
「最近キャンプとバイトであんまりセックスできなかったのは悪かったけどさ」
ドキ…
ドキ…
ドキ…
「恥ずかしがってるところ見て喜ぶの性格よくないぞ」

「流石にここに人は来ないと思うけどさ」
「……こんなことするなら薪割り手伝ってくれよ」
ドキ♡
ドキ♡
ドキ♡
「っていうか、せめて勃起しろよ！　見せてるんだからさ！」
「ほら、早く写真撮って終わりにしろよ」
「恥ずかしいし、寒いし」

「えっ、今日は写真撮らないのか？」
「目に焼き付けて家でオナニーするって……」
「恥ずかしいことさせるし、恥ずかしいこと言うし……本当に恥ずかしいやつだな！」
「……じゃあ、また明日な」

数日後

「昨日、フェラのやり方ネットでいっぱい調べてさ」
「お前、あたしの口でイッたことないじゃん」
「だから、イカせたいと思ってな」
「フェラでなるべくイキたくないってなんでだよ？」
「フェラ好きだって言ってたじゃん」
「好きだけど、折角だからまんこでイキたいって……なんかケチくさいな」
「ちゃんとセックスする日は何発も出してるし」
「一発ぐらい口でしたっていいだろ」

「……とりあえず、今日はセックスしないからいいだろ」
「昼休みに野クルの部室来いよ」
「絶対にイカせるから」

「ごめん。なんか昼飯食ったあと、ちんぽしゃぶるの違う気がするし」
「昼飯食べる前にしゃぶるのも嫌だなぁって思って」
「フェラは放課後で」
「なんだよ文句言ってたくせに結局楽しみにしてたのかよ」
「ごめんごめん。放課後は絶対するから」
「今日は二人ともバイトで来ないから大丈夫」

「じゃあ、よろしく」
「なんか焦らすみたいな感じなってごめんな」
「……あたしも」
「なんか、午後の授業は身が入らなかったよ」
「ずっとフェラの気持ちになってて」
「フェラの気持ちはフェラの気持ちだよ！」
「いいから、するぞ」

（ちょっと匂いあるな）
（放課後だし、仕方ないけど）
（でも、この匂い好きかも）
（少し勃起してる……やっぱこいつも興奮してるんだな）
はぁ
はぁ
はぁ

（ちんぽ、硬く……大きくなって）
（あたしの舌気持ちいいのかな）
（亀頭転がす感触……♥）

（口の中、ちんぽでいっぱい……）
（ちょっと苦しいけど、好きだな）
（舌動かして刺激しよ）
（ちんぽぴくって動いた）
（感じてるのかな？）
ぺろ
ちゅる

（唇すぼめて）
（前後に動かして……）

ちゅるるる♡

くぽっ

ちゅるっ♡

くぽっ

くぽっ

ビビッ!!
ビクッ

んっ♡
ゴクッ

「はじめて精液飲んだけど……飲むもんじゃないな」
「でも、ちょっと幸せかも」
「ん～、よく分からないけど」
「嬉しいっていうか」
「でも、早く口をゆすぎたい」

「気持ち良かったか？」
「だろぉ～」
「まぁ、あたしは気持ち良くないけど」
「いいんだよ、お前が喜んでくれれば」
「それになんか……イカせるの面白いし」
「またフェラさせてね」
「じゃあ、また明日」
「一緒に帰る？」
「……まぁ今日はいいか」
「あんまり人のいない時間だし」

第100

「こうやって二人でお風呂入るの久しぶりだな」
「最近エッチなことは学校でばっかりしてたし」
「やっぱり二人でお風呂入ると……」
「これからエッチするんだなぁって気持ち高まるよな」
「脱いでるときが一番気持ち高まるのか？」
「その感覚はあんまり分からないけど……」
「脱いでるときは脱いでるだけじゃん？」

「？　そりゃ、風呂に入ってるときは眼鏡外すだろ？」
「ん？　見えるよ。普段よりは見えないけど見えるよ？」
「……あっ！　だからお前、逐一手伝おうとしてたのか!?」
「お風呂入るときとか、体洗うときとか！」
「なんか妙に優しいと思ったら、お前がバカだっただけなのか……」
「普段だって入ってるんだから大丈夫だよ」

「……ちなみに言うとお前がすげー勃起してることくらい」
「眼鏡かけてなくてもちゃんと分かるからな」
「……」
「……」
「……」

「そろそろ出ようよ」
「折角、家でセックスできるんだからさ」
「……」
「いっぱいしたいだろ♥」
「……いや、エッチのときは眼鏡する」
「見えないじゃん」
「もしかして、眼鏡かけてない時の方が可愛いとか？」
「……眼鏡かけてるときの方が好きならなんで聞いたんだよ」

「なんだよ、顔近づけて」
「お風呂上がりの匂い好きなのか」
「んー、あたしは普段の匂いの方が好きかな」

「って、そんなのどうでもいいから早くするぞ!!」
「折角、家でセックスできるんだから」
「……いっぱいしたいじゃん♥」
「もし家族が早く帰ってくることになるかもしれないしさ」

「あっ♥　正常位セックス久しぶり♥」
「やっぱり顔見ながらのセックスいいな♥」
「んんっん♥　なんかちんぽ、いつもより大きい気がする♥」
あッ♥
ぐちゅ
ぐちゅ

ん♡
あっ♡
あっ♡
おっ♡
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ

ビクッ
ドキ
ビクッ
ビクッ
くちゅ
くちゅ

はー♡
はー♡
はー♡
「はぁ、はぁ♡ すごいイっちゃったよ♡」
「まだ続けるよね♡」
ビクッ♡
ビクン

じゅぢゅ!!
んぅ~♡

「寝バック……好きぃ♥」
フー♡
フー♡
フー♡
パンッ
ぱっ
ぱっ
ぱっ
ぱんっ
ぱっ

「おちんぽ、好きなところにぃ！　一番当たる♥」
「イグっ♥」
ぐちゅ
ぱちゅっ
ぐちゅ
ぱこっ
ぬぽっ
ぐちゅ

ぁぁぁぁぁ♡
おちんぽ!!!
中でビクビクイってるぅ♡
どくっ…
ドクンッ!!!

「もう無理ぃ♥」
「あー♥ イキすぎて……」
パンッ
ぱちゅっ
ずちゅっ
パンッ
はー
はー
はー
はー
ゾクッ
ゾクッ
ゾクッ

「すっかり夜になっちゃったな」
「……4時間か」
「今日はいっぱいエッチしたな」
「その……満足できたか？」
「ん？　あたしは……いっぱいイッたし満足だよ」
「というか、お前とのセックスで物足りなかったことないし♥」

「うん♥」
「じゃあ、また明日」

一週間後

「あきちゃん最近、野クルの部室でエッチしてるやろ？」
『……!!』
「なでしこちゃんと荷物取りに来るとき見かけてな」
「なでしこも見てたのか……」
「ううん、ごまかしておいたで～、結構大変やったけど」
「あ、ありがと」

「彼氏さんなん？」
「まぁ……」
「そうなんや、羨ましいなぁ、彼氏さん結構格好良いやん」
「そ、そうかな」
「私もセックスしたいわー、一回だけヤラせてくれへん？」
「えっ」
「ええやん、口止め料みたいなもんや」

「いや……まぁ……聞いてみてもいいけど」
「ええの!?」「冗談のつもりやったのに」
「冗談ならだめだけど」
「いやいや、半分は本心やで」

「エッチしてるあきちゃんすっごく気持ち良さそうで羨ましかったし」
「……そんな長い間見てたのかよ」
「なでしこちゃん帰したあとな～、人が来ても大丈夫なように見張っておいたんやで」
「……」
「本当やで？」
「じゃあ、聞くだけ聞いてみるから」

「あのさ、犬子がさ――お前とエッチしたいって言ってさ」
「エッチしてやってくれないかな？」
「なんでって……部室でエッチしてるの見られてさ」
「口止めというか」
「まぁエッチすれば共犯になるし……ってことなのかな？」
「あたしも見てるから大丈夫だよ」
「キスとかはするなよ。セックスだけな」
「日にち決まったら連絡するから」

数日後
「あきちゃんの彼氏さん！　はじめまして～」
「今日はよろしく～」
「久しぶりのセックスだから、ほんと楽しみや～」
「脱ぐからちょっと待っててな～」

「なんで全裸になるんだよ」
「エッチは裸でした方が楽しいやろ～」
「あきちゃんが見張っててくれるから安心やし」
「お前は脱がなくていいからな」
「せやね、二人とも裸だと言い訳しにくいしな～」
「いや、一人だけ裸でも言い訳できないだろ」

「おっぱい触る？」
「んっ♥」
「いきなり手マン……♥」
「彼氏さん焦りすぎやで♥」
「んあっ♥そこ気持ちいい……」

あっ
ッ!
Poy
ちゅっ
ちゅっ
ちゅ

「ん――っ♥　おっ……ん――!!」
「手マンでイカされたの初めてやわ……」
「彼氏さん上手いなー」
「あきちゃんは幸せものやね」
ぴくぴくっ
ぶるぶるッ!
びくん

「もう、おまんこ準備万端だし……」
「おちんちん……入れて」
「これ以上焦らされたら、あきちゃんの彼氏さんなのに好きになりそうやわ」
「気持ち良くしてな」
ドキドキ…
ドキドキ…

「あきちゃんの彼氏さんのおちんちんええなー♥」
「ずっしりしてて、ぐいってして……♥」
「うんぅん♥　んあぁぁぁ……♥」
「あきちゃんが我慢できずにぃ♥　部室でセックスしてまうの分かるわ～♥」
すちゅっ
すちゅっ
すちゅっ
ぱちゅっ

ふっ
ふっ
おっ
おっ
ふっ
ぎゅっ
ぎゅっ

「イったばっかのぉ♥敏感おまんこにいいんっ♥」
「これは結構きついなー♥」
「気持ち良すぎて変になってしまいそうや〜♥」

はっ♥
はっ♥
はぁ♥
はっ♥

「おっぁ♥　ん……はぁぁん♥」
「おい、少し声抑えろよ」
「そんなこと言ったってぇ♥　我慢できんやん♥」

ズッ
くちゅ
ズッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ん
ん
ん
びくん びくん
ビクッ
ビクッ
びくん
ぎゅ

ぷしゅっ
ぷしゅっ
ぷしゅっ

「彼氏さんのセックスすごすぎや……♥」
「実は、セックスでイったのはじめてやわ～♥」
「あきちゃん、ほんと羨ましいなぁ」
「服着ろよ。終わったんだから帰るぞ」
「あきちゃん、せっかちやなぁ」
「彼氏さん、もしあきちゃんにフラれちゃったら私のところきてな～」
「慰めセックスしような～」
「フラないし、フラれないから！」
「仲ええんやなぁ～ほんと羨ましいなぁ」

数日後

「ん？　まぁ付き合ってることバレちゃったし……」
「一緒に帰ってもいいかなって思って」
「三人でいられる時間も増えたし、最初から隠れたりしなきゃよかったな」
「――まぁ、あたしが言い出したことだけどさ」

「この前さ、犬子とエッチしただろ？」
「どうだった？　あいつ胸とか大きいし……その楽しかったか？」
「……!!」
「あたしの方が全然良かったって、全然を付けるほど？」
「……まぁ、そう言ってもらえると嬉しいけど」

「……あたしも犬子に彼氏自慢できるからいいかなって思ったけど」
「お前と犬子がエッチしているの見たらやっぱ嫌だなぁって思った」
「胸が苦しくなるみたいな」
「だから、お詫びとしてあたしのしたいことに付き合ってくれよ？」
「確かにお前が犬子とヤりたいって言ったわけじゃないけど！　いいんだよ、それは！」

「……そのさ、キャンプしてさテントでエッチとかしてみたいんだよな」
「でもさ、キャンプ場でそういうことするのってどうかなって思うんだよ」
「それに、お前一緒にキャンプしたいって言っても来なさそうだし」
「その代わりってわけじゃないけど、外でエッチしてみたい」
「場所はもう調べてある。人ほとんど来ないし、林みたいになってるから大丈夫」
「えっ……やりたい理由は、その、なんか、興奮しそうだし……」
「――ありがと、じゃあ行こう」

「あと今日さ、ゴム無しで――中出ししてほしい。試してみたい。どんな感じか……知りたくて」
「今日は大丈夫な日だから」
「……犬子にはしてないことしてもらいたいし」
「ほんと!? 嬉しい。中出しされるのってどんな感じなのかな?」
「イクときのちんぽっすっごいビクビクしてて」
「あたしで気持ち良くなってるってのが分かってすごく好きなんだけど――」
「もっといいのかな? あと、お前ももっと気持ち良くなれるのかな?」

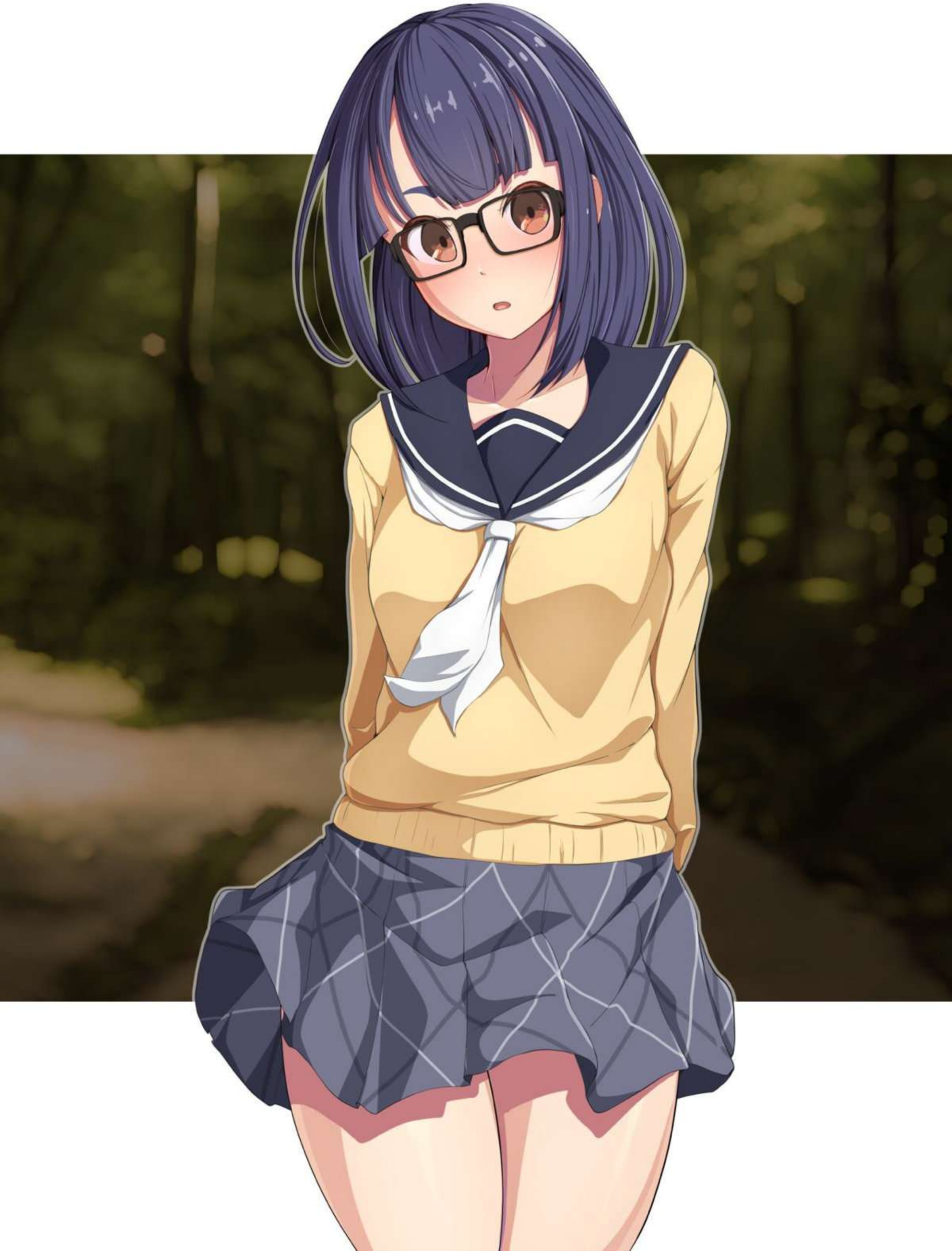
「ここ」
「あそこの奥なら、人来ないし、通ったとしても見えないだろ？」
「……なんかさ、部室でエッチしてるうちに」
「そういうところでヤるのハマっちゃったのかも？」
「おうちセックスも好きだよ」
「でもなんか、興奮の質が違うというか」
「……うん、あたしも今めちゃくちゃ興奮してる」
「心臓すごく――どきどきしてる。早くセックスしたい」

顔見ながらしたいから♥
この体勢で♥
あっ
しっかり
支えてくれよ♥
ずにゃ

この格好……恥ずかしいすごく興奮する♥
はぁ
はー
はー
あっ
おまんこ……んんっ♥いつもより気持ちいい気がする♥
ずっ
ずっ
ずっ
ずっ

あ♡
ぴゅーー♡
ぴゅる♡
あああんっ♡
すごい♥すごい♥
すごい♥
出てるの分かる!!

はぁ
ぶしゅ
ビク
ビク
はぁ
ぶしゅ
ぜぇ
はぁ
はぁ
ビク
ビク
ドク

「すっごくドキドキした！」
「今度ほかのところでもやってみたいな！」
「ええ～、まぁ気持ちよさって点では家の方が気持ちいいけどさ」
「外には外の良さがあるというか」

また明日♡